

NPO 法人 住まいのホームドクター／設計者
460-0017 名古屋市中区松原 1-17-6 朝日軒ビル 3階

HD ニュース

No. 84
2020. 5. 15

今後の予定

5/21 木造技術研究会

コロナウイルスの影響により中止

5/26 マンション・ビル大規模修繕研究会

5/26 研修会

コロナウイルスの影響により中止

当面は、役員会・各委員会の開催は見送らせていただき、再開につきましては後日お知らせ致します。

ウィズ・コロナ

副理事長 澁谷道子

1月の武漢の閉鎖ニュース以来、何だ何だという思いでニュースをあさった。公共放送は当時サクラ問題追及だらけで何の情報も入ってこない。どういう疾病なのか。防疫の方法は、個人レベルではどう対処すればいいのか。外出禁止とか都市封鎖になるとどうなる生活になるのか。普通に気になると思うのですが、えーどうしてみんな気にしないの？動画で情報を集めると、どうもこの病気はただならなくたちが悪い。かつてのスペイン風とか、中世のペストに匹敵しそう。こう思うんですよねと2～3人周りの人に話してみても反応薄い。とりあえずマスクひと箱購入して、離れて住んでいる娘に警告する。

普段は健康のためにスーパーまで歩こうと、1～2日分の食べ物しか用意しないので、外へ出歩けなくなった場合に備えて1か月は飢え死しない量をめどに保存食料品を購入。あとで娘が困った場合を考えてそれを倍に増やした。

次に、何か起こるとたいがい日用品が無くなるので、トイレットペーパーとティッシュ。消毒薬。ちょっとした体調の変調では病院へは行けなくなるし、コロナかも知れないと思っても多分行かないので、解熱薬・咳止め・ビタミンドリンク・吸入器まで購入。笑い話として友人に話したら、そこまで準備してそれで罹ったらがっかりだねみたいなことを言われた。立ち止まって考える。コロナにかからないようにとか怖いとか、ともちょっと違う。結果がどうなってもあまり関係ないような気がする。しいて言えば、世の中がまったく気にしていないときに、なんだかマニアックにお金をつかっているようなのが軽いストレス。気が付いてしまったら、もちろんそれは思い違いというのももちろんあるけれど、対処しないのは良くないと思う。



我が家のコロナ対策グッズ

アベノマスクが笑いものになっているが、そういう昔…小学生のころになんだか冬にはいつもマスクをして登校していたような記憶がある。あれはインフルエンザがはやっていたのね。帰って来たらマスクとガーゼを洗って干していたっけ。使い捨てマスクについては一回一回ゴミを出すのがなんとなく嫌なので、ガーゼを大量に用意してそれは使い捨てることにした。マスクは2～3回は使う。消毒薬は使う習慣がつかなかったので娘に送って、気が向いたら使い捨て手袋をはめて外出する。気が向いたら、帰ってきて玄関のレバーハンドルと車のハンドルを消毒ティッシュで拭く。なるべく手を洗う。ペーパータオルしか使わない。という対処に落ち着きました。

LINEで厚生省インフォメーションにつながっていますが、最近電池の無くなるのが早いような気がする。情報内容が意図不明で、台湾のマスク販売情報のような役に立つことをやってくれないものかと思う。文在寅さんの国では誰もがナンバーですべての情報が紐付けされ、感染者や接触者の人達がどこそこの知り合いと会ったとか、スマホで住所・実名で公表されて、否応無しに自主隔離になった模様。日本では近所の町内会で合う人たちはみんなマスク

をして、罰金なんかなくてもなるべく外にでないようにしているし。いったん方向性が決まれば、行政の手際不手際にはたいしてこだわらず、文化として公衆衛生に協力しますよね。AI を駆使して強制的に国家として監視を進める方向をとるか、コミュニティでの自由意志と協力で進める方向をとるか、で世界の組み分けが変わってきそうです。

これについては対処出来る事は無さそうですが、ともかく、コロナとともに世の中の有り方が変わり、常識が変わり、これからもずっとつきあっていかなければならないもののようです。名古屋の緊急事態宣言は 5 月いっぱい続くようです。健康に気をつけて気を緩めない様にしましょう。

空き家問題

西尾貞臣

空き家が増えている。一方で住宅やマンションは相変わらずどんどん建設。住宅建設は、経済の主翼を担って、スクラップ・アンド・ビルドは相変わらず。根は深い。人口は減少。少子高齢化社会と喧伝されているにも関わらず、適切で効果ある政策は打たれていないとは思えない。

そして、景観の視点。日本の都市や集落、人々の営みの現れである景観。景観は公共。みんなのもの。大切にすることを考えや思いの劣化、衰退。「いまだけ・かねだけ・自分だけ」の 3 だけに押されて。この国の風景の劣化は、目を覆うばかり。成長を良しとする文明は、ひどい状況。文化の成熟度は、凋落。文化についての感度・危機感もひどい状況。明治 150 年の間にどんどん劣化して、現在の景観はどうだ。

こうした現状認識をベースに、小牧市を拠点とする私の知る具体的な 2 つの事例を。

1) 常懐荘（じょうかいそう）の顛末



2017 年当時の姿



2020 年の状況

大正モダン・和洋折衷住宅。この住宅（昭和 8 年建設）は、竹内禅扣（ぜんこう、小牧市出身。坪内逍遙の弟子の 1 人、現愛知産業大学の創始者の 1 人）が、逍遙の熱海の別荘・双柿舎に感化されて、小牧市の丘陵に建てた別荘。グーグルで検索出来。この歴史ある住宅が、長らく空き家であったが、有志により清掃や整備を行い、行事～展覧会や交流会等に活用され、小牧市立地の名古屋造形大学が学生の課題作品展示の場として活用されてきた。

遺産相続の課題もあり、終に不動産会社に渡り、建物は解体、敷地は造成途中で休止している。洋間の一部が愛知産業大学・図書館に移築再生されたのが救い。

2) おおくさの家の展開



2020 年外観

2019 年発表会風景

遺産相続で空き家となった農家住宅の活用。集落の中に立地。判りにくい場所でも、広い敷地で、5、6 台の駐車スペースを確保。一度知ればその後は大丈夫。NPO 法人が借受け管理運営。田の字プランで、利用の柔軟性があり、英会話など学びの教室の開催、交流の場、作品展、朗読会等、多様な利用が展開されている。

要は、歴史の時間軸、景観の空間軸の双方についての人々の価値観、認識の度合いが問われている。と思う。

